

強い気概持って邁進

創立50周年記念式典

県会
島業
工業
構工
鉄構

広島県鉄構工業会（山本泰徳理事長）は25日、広島市南区のホテルグランヴィア広島で創立50周年記念式典を開催した。組合の歴史や先代の功績

を振り返るとともに、100周年に向けて鉄骨業界のさらなる発展を誓い合った。式典には業界関係者約100人が出席。開会の

あいさつで、山本理事長は「創立50周年は先代の皆さんの努力の賜物といえる。世代が変わりつつある中、先代が苦勞して作り上げたものを守りな



あいさつする山本理事長



祝辞を述べる湯崎知事

がら、新しい革新的な技術に挑戦していくことが大切だ」と強調し、「我々の業界がないとビルを建てることができないという強い気概を持ち続け、今後も邁進してほしい」と呼びかけた。

来賓出席した広島県の湯崎英彦知事は「皆さんの高度な知見と経験を生かし、今後も建築物の安全・安心の確保、鉄骨技術のさらなる発展のために尽力してほしい」、全国鉄構工業協会の永井毅会長は「この節目に一段と結束を強め、力強く前進してほしい」とそれぞれ祝辞を述べた。

その後、理事長・理事15年以上の経験者、組合貢献学識経験者の表彰式を行い、山本理事長が表彰状と記念品を贈呈した。

青年部による未来宣言では、遠藤健太郎会長が「ものづくりに自信と誇りを持ち、若者や女性が活躍できる明るい業界を目指す。組合活動を通じて信頼と絆を深め、未来

に向けて失敗を恐れずに挑戦していく」と表明し、会場は大きな拍手に包まれた。

祝賀会に移ると、組合員や業界関係者が談話に花を咲かすなど楽しいひと時を過ごした。

この日は式典に先立ち第50回通常総会も開催され、2022年度事業報告・決算報告、23年度事業計画案・収支予算案など6議案を全会一致で承認した。

23年度の事業計画には、▽人材の確保・育成、▽鉄骨の技術開発を含めた最新技術の取得と普及、▽青年部のさらなる活性化▽フアブの社会的認知・地位の向上▽支部会活動の一層の充実の5項目を盛り込み、青年部、支部会と連携した活動を展開することを確認した。